

AFTERNOON TEA

さがしてごらん佐賀

佐賀大学医学部生体構造機能学分野薬理学教室

窪田 寿彦

福岡大学薬学部臨床疾患薬理の桂林秀太郎先生よりバトンを頂きました。佐賀大学医学部生体構造機能学分野薬理学教室の窪田寿彦と申します。桂林先生とは、大学時代から大学院時代と同じ研究室に所属し一緒に実験を行ってきた先輩であり、今でも公私にわたり色々とお迷惑をかけている間柄です。前号の生理学会誌によると、「先輩の言う事は絶対！」という体育会系の精神で育てられたらしい先輩からのバトン、こればかりは受け取らなければならないバトンのようでした。

体育会系の精神を持つ先輩と過ごした大学院時代、研究室にはそれ以上の体育会系精神を持つ輩がウロウロする場所で、練り広げられる生活は「不夜城的なラボ生活」という言葉がピッタリでした。お決まりの朝早くから夜半までのラボ生活にその後の飲みという日々、メタボという言葉が見当たらない時代でした。そんな環境で深夜に行われる実験室の教授回診、翌日の説教部屋（教授室）も何とかやり過ごしつつ、教授不在の夕方からのハッピーアワーはしっかり楽しむ4年間でした。そこでの経験は、以後の国内外のラボ生活でも、役に立てることができているかなと感じます。

さて現在の研究室がある佐賀ですが、少し前CMで「さがしてごらん佐賀県」というフレーズが有名になりました。先日発表された全国都道府県魅力度ランキングでは、全国45位です（一昨年の38位でした）。どれだけ魅力がないのかと思いますが、見回してみると色々とおあるものです。佐賀は、日本最大の潮位の干満差を有する有明海と広く接しています。有明海は、日本最大の干潟を有し固有種も多く、生物生理学的に興味深い生物が多数生息しています。また、有明海で生産される海苔は、全国の約4割を占め生産量1位です。干



様々な形のパルーンが空を賑わすパルーンフェスタ

潟では、泥だらけになりながら干潟を楽しむスポーツイベントも開催されており、海外からの参加者も多いと聞きます。泥んこになる機会さえも減った中、一度は参加してみたいものです。海外からの参加者も多く知名度があるのが、パルーンフェスタという国内唯一の国際熱気球大会です。熱気球は派手さもなく一見地味ですが、100機前後が参加する活気ある競技大会です。カラフルな色の様々な形状をする気球が空を埋め尽くすのは見応えあります（今年はダースペーダーやヨーダの気球があったとか）。文化的には、有名な有田焼はもちろん（佐賀大学に窯業専門課程ができました）、弥生時代の環濠集落跡「吉野ヶ里遺跡」などがあり（邪馬台国かと騒ぎになった遺跡です）、派手さはないものの地味にアピールしています。さてここで質問です。最近市内でよく見かける言葉ですが「佐賀七賢人」、誰だかご存知でしょうか？恥ずかしながら、私は全く知りませんでした。どうやら、日本の近代化に貢献した佐賀藩出身の偉

人らしく、鍋島直正、佐野常民、島義勇、副島種臣、大木喬任、江藤新平、大隈重信の7人です。調べてみると、意外に興味深い人達です。

全国でも魅力のない佐賀ですが、今年になり「佐賀さいこう！」というPR動画が作られ、佐賀が面白く紹介されています。我々が日々行っている研

究も地道なものが多いですが、しっかり探してみると「お！さいこう！」と言えるもの沢山あると思います。何気ない実験がもたらす結果をしっかり探し（佐賀？）、大きく「さいこう！」と言えるよう研究も頑張りたいものです。



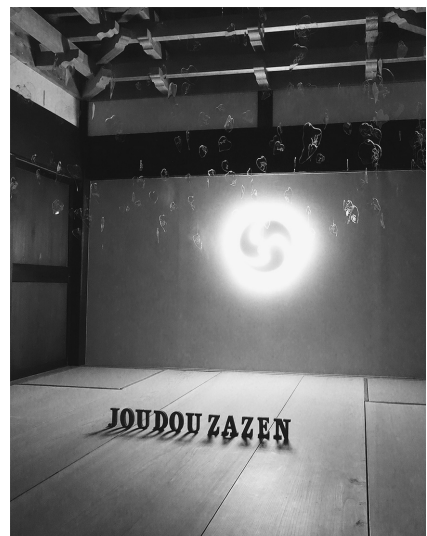
こころのよりどころ

広島大学医歯薬保健学研究科運動器機能医科学

浦川 将

富山大学システム情動科学の坪島功幸君からバトンを受けました。私の大学とのかかわりは、物理学から始まりました。大学を選択するにあたって、当時NHKの特集でアインシュタインを取り上げた番組を放送しており、単純化された公式が自然現象を解説してくれるその美しさに憧れ、「アインシュタインになる」という若さ故の厚顔無恥なセリフを吐いて親元を離れました。その後は七転び八起き（ちょうど渡り歩いた大学が7つになります）、昨年から広島大学で理学療法学を専攻する学生の教育と研究に携わっております。

物理学から、コメディカル領域、医学領域へと所属を変えてきましたが、研究室が違えばその教室の方針が異なることはもちろん、それ以上に領域によって研究に対する姿勢・見方が少しずつ異なるを感じています。アインシュタインで有名な公式といえば、「 $E=mc^2$ 」が思い浮かびます。物理学の目指すところは、自然界の法則性を見出し、なるべく単純化した説明をもって自然現象を理解するということがあります（私見ですが）。一方の医学では、現象をまとめて理解するのみならず、細部の違いにこだわることを求められます（私の勝手な印象です）。リハビリテーション学は、まだまだこれからの学問であるため、まずは大観として障害を捉えることと、障害を引き起こし症状の悪化や治癒にかかわる生理現象を細かく理解する両極が求められていると思います。患者さんの障



2017年冬、富山での日本情動学会の際に立ち寄った禅寺でJODOUの文字を発見。正しくは「成道」ですが、わたしには何かの縁かと思い情動坐禅と解釈しました。

害像を究極に理解するとは、その方のこれまでの背景（生活様式や趣味趣向、家族、身体能力等）と、発症後に起こりうる変化（脳卒中後であれば麻痺の回復や最適な治療方法等）を理解し、患者さん本人に起こりうることを解説出来ることであろうと思います。少なくとも、私自身リハビリテーションにかかわる研究者として、そのような理想に向かって歩んでいきたいと思っております。

話しは変わりますが、学生時代から空手道の稽古を行っております。広島大学（医学部）では、学生に交じって（ハイハイいいながら）稽古に参加（たまに指導）することがあります。私の研究テーマのひとつに「情動（emotion）」がありますが、武道では「心・技・体」の重要性を説かれます。「こころ」が最初にくることを強調される指導者もおられます。禅の教えよろしく事細かにその理由を解説することはなく、「どういう意味か考えなさい」というのが通例です。長年やっていると、こころの持ちようで身体能力はかなりの部分制御されており、そこを自覚しないと空手道の向上がないことを痛感するようになります。自分自身の身体制御もそうですが、特に初学者に空手道を指導する場合、相手の身体制御を律するには本人のこころの動きを考えないと、うまくこちらの意図が伝わりません。突きの動作で肩に力みがある場合に、「肩の力を抜いて」と言っても多くは動作の改善には結びつかず（試合になると元の動きに戻ります）、なぜそのような動作になってしまうの

か、こころの動きの理解抜きには理想的な動作の習得を成し得ません。そのような考えはリハビリテーションの臨床にも当てはまり、例えば痛みや麻痺のため歩行時に姿勢異常がみられる場合、単純に姿勢を矯正するだけでは歩行動作の獲得には至らず、姿勢異常の理由や患者さんの情動（動作時の不安感や自己の動作の捉え方）を含むこころを理解しないと、歩行練習時と日常生活での歩行に相違がみられる場合があります。機能回復過程における身体制御を考えるうえでも、こころの持ちようの重要性を改めて認識します。ちなみに、富山大学で情動の研究をご指導いただいた恩師は、研究に行き詰って相談にいくと、ディスカッションの最後に決まって「根性根性根性！」とあたかも禅問答のような指導が返ってきました。それを理解する境地にはまだまだ達しておりませんが、先生の心意気に絆されて研究がすすんでいたのは事実です。教室を運営する立場になってまだ日が浅いですが、こころの理解をもとに精進して参りたいと思います。



47 位からの脱却に向けて

茨城県立医療大学医科学センター

石井 大典

藤田保健衛生大学の武田湖太郎先生よりバトンをいただきました。茨城県立医療大学医科学センターの石井大典と申します。武田さんとは、昭和大学客員教授の沼田憲治先生が会長を務められた「脳機能とリハビリテーション研究会」の学術大会（後の懇親会？）で知り合いました。武田さんの姿をお見掛けするのはいつも飲み会の席だったと記憶しております。今では学術誌の編集部員や共同研究者としてご一緒に活動させていただいておりますが、武田さんの細部へのこだわりの強さには毎回脱帽しております。

私は沼田先生の出身研究室である千葉大学大学院医学研究院認知行動生理学（旧第一生理学）で



研究活動をスタートしました。今からちょうど10年前、昭和大学を中退しようと考えていたところを沼田先生に引き止められ、千葉大学への進学を

勧められました。沼田先生は落ちこぼれ？に声をかけて更生させるのが非常に上手く、モチベーションが低下していた私のような人間を大量に助けておられました。あの時声をかけていただきありがとうございました。

千葉大学では清水栄司先生、松澤大輔先生のご指導のもと、恐怖や不安といった情動機能について研究を行いました。大学院入学直後、とりあえずこれを読めば研究がスタートできるからと数本の英語論文を渡され、同期の松田真悟さん（昭和薬科大学薬学部）と研究の世界に恐怖を感じたことを覚えています。また研究とアルバイトで慌ただしく過ぎる日々の中で、休みなどいらないと勘違いし頑張り過ぎたこともありました。このように色々ありましたが、大学院生時代に国際学会での発表や論文執筆の機会をいただけたことは、今の私にとってとても良い経験となりました。

現在は私立大学の教員を経て茨城県立医療大学の医科学センターで教員をしております。茨城県

立医療大学は動物実験施設や付属病院を有しており、基礎研究から臨床研究まで行える施設です。ここでは、河野豊先生、四津有人先生、角友起先生、山本哲先生と協力しながら質の高い研究を進めていきたいと考えております。毎年発表される「地域ブランド調査 都道府県ランキング（株式会社ブランド総合研究所）」によると【茨城県】はここ数年47位を独占しておりますが、少しでもランキングが上がるよう教育・研究の立場から茨城県を盛り上げていきたいと思えます。Afternoon Teaの規定によると、特定団体の過剰な広告と受け取られかねないものは制限されるそうですので、茨城県の宣伝はこのあたりで止めておきます。写真は茨城県の名所「筑波山」です（山本哲先生からの提供）。

武田さんよりバトンを受け取る際、「面白いことが書けるといいね」とプレッシャーをかけていただき熟考した結果が以上の文章になります。今後ともよろしく願いいたします！